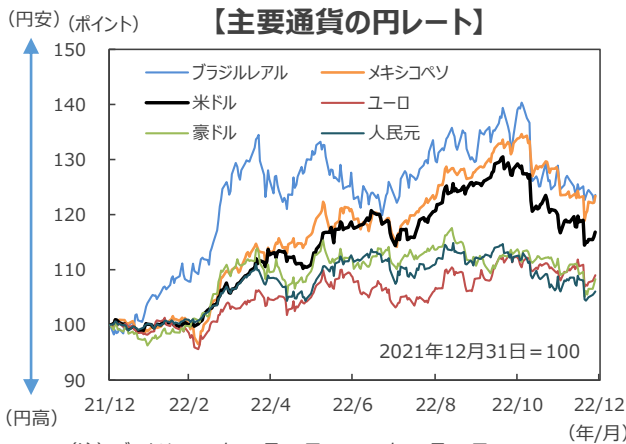




今日のトピック 今年のマーケットを振り返る4 為替市場
ドル円は32年ぶりの円安、10月以降は円高へ修正

ポイント1 ドル円は一時30%超えの円安

- 2022年の為替市場は主要通貨に対して大幅な円安となりました。米ドル/円レートは2021年末の115.08円から、10月20日には150.15円と30.5%円安が進みました。150円を超えたのは1990年以來32年ぶりです。対ユーロ、豪ドルでも10%台の円安となりました。
- 急激な円安・米ドル高は、2月のロシアによるウクライナ侵攻とその後の原油などのエネルギー価格や穀物価格の高騰、3月に利上げへと舵を切った米連邦準備制度理事会（FRB）による以後の利上げ加速による日米金利差の拡大などが背景です。



ポイント2 主要新興国も大幅円安

- 主要新興国ではメキシコペソ、ブラジルレアルが堅調でした。昨年末からピーク時までの変化率はメキシコペソが34.6%、ブラジルレアルが40.3%と大幅な円安・現地通貨高でした。メキシコは堅調な景気や高止まりするインフレを踏まえ大幅な利上げが継続しました。ブラジルは9月までの利上げで高い金利水準となり円安が進みました。

今後の展開 23年は円高が進みやすい環境か

- 足元では、それまでの円安基調に大きな変化が生まれています。主要通貨は円安のピーク時より円高が進んでいます。米国の物価上昇率がピークを打ったことや日銀が長短金利操作の運用を一部見直したことから日米金利差の縮小が意識され始めました。
- 続く2023年は米国の金融政策がガジを握りますが、日銀の金融政策も重要です。米国を中心に世界の金融政策は利上げ終了が見え始める一方、日銀の長きにわたる異次元緩和が修正を迎える転換点に近付きつつあると思われるためです。米国を中心とした主要国・地域と日銀の想定される金融政策の変化を踏まえると、2023年は円高・現地通貨安が進みやすい環境になる可能性があります。

【主要通貨の円レート】

	21年末 ①	円安のピーク ②	直近 ③	変化率 (%)		
				②÷①	③÷②	③÷①
米ドル	115.08	150.15 (10/20)	134.47	30.5	▲ 10.4	16.8
ユーロ	130.90	147.56 (10/26)	142.71	12.7	▲ 3.3	9.0
豪ドル	83.68	98.39 (9/12)	90.63	17.6	▲ 7.9	8.3
メキシコペソ	5.61	7.55 (11/3)	6.92	34.6	▲ 8.3	23.4
ブラジルレアル	20.65	28.98 (11/3)	25.53	40.3	▲ 11.9	23.6
人民元	18.11	20.80 (9/13)	19.20	14.9	▲ 7.7	6.0

(注) データは2021年12月31日～2022年12月28日。()内は月日を示す。直近は2022年12月28日。変化率の▲は円高を示す。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここもチェック! 2022年12月28日 今年のマーケットを振り返る3 株式市場
2022年12月27日 今年のマーケットを振り返る2 債券市場

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。